

# ひやくさい

2011年(平成23年) 7月発行 No.52

福岡県高齢者福祉生活協同組合

〒812-0025 福岡市博多区店屋町3-23

サカタビル2F

TEL(092) 282-1431 FAX(092) 282-1433

発行責任者：理事長 宮田 育郎

編集責任者：ひやくさい編集委員会

Email : ikiiki00@mba.sphere.ne.jp

http://www.fukushiseikyou.jp/

**全国の仲間と連帯して  
地域福祉の灯火を燎原の  
火にしましよう**

理事長 宮田 育郎



福祉と聞いて  
真っ先に頭に浮  
かんできたのは、  
第二次大戦後の  
イギリス労働党  
の社会保障制度のスローガン「振り  
カゴから墓場まで」の言葉でした。

この言葉の意味しているものは、我々  
も憲法第二十五条で獲得しているの  
ですが、その恩恵を眞面に受けた実  
感は薄いように思います。高齢者の  
目の前に現われた社会保障制度は、  
自助（保険料を支払えば）が先にあ  
つて、公助（政府は援助する）が後  
になる社会保障の商品化（社会保険  
制度）でした。そして、これを合理  
化するために、コミュニティ・事業  
体等の役割＝共助、を提唱しました。

ようになります。現場の声を政府に  
届けるためには、全国の仲間たちと  
連帯して大きな力をつくり、地域福  
祉の灯火を燎原の火にしたいもので  
す。そこから命を大切にする世の中  
が生まれると信じています。それに  
は先ず、我々「ふくし生協」で働く  
人々、その施設を利用する皆さん・  
家族の方々、それをサポートしてい  
る地域の人々、生協を運営する役員  
の皆さんがそれぞれの思い、考え、  
悩み、不安等をみんなで共有し、そ  
の解決に努力することです。

**第Ⅰ期中期計画二年目、  
絆の再生への取り組みで、  
眞に信頼される組織へ！**

専務理事 稲月 秀雄



稻月秀雄

二〇一一年度  
は第Ⅰ期中期計  
画の二年目に位  
置付きますが、

ます。

そのことを教訓に、私たちも約五  
〇〇名（全組合員の一割弱）の組合  
員が住所地不明となっている状況を  
解消する年度として取り組みます。  
全組合員とともに力を合わせて、真  
に信頼される組織としての活動基盤  
を、改めて整備したいと考えていま  
すので、本年度もよろしくお願ひし  
ます。

東日本大震災後  
でもあり、また二〇一二年度に介護・  
医療制度改革を控えていることもあ  
り、後に振り返ったときに「大きな  
節目の年度」になるでしょう。今後  
十年、二十年を展望する構えで、採

択された年度方針の遂行に全力を尽  
くしたいと考えています。

総代会では、「協同組合原則・理  
念」と「長期目標・中期計画」に基  
づく活動の基調を確認していただき  
ました。その第一に掲げたものは、  
「自然災害・人災を風化させない構  
えとつながり・絆の再生への取り組  
み」でした。東日本大震災の被災地  
から、組合員の安否確認に奔走した  
際の様々な報告が寄せられました。  
今後は、復興に向けた長期的な支え  
あい活動のためにも、組合員一人ひ  
とりとつながっていかなければなり  
ません。

このことは国会で決めているから國  
民が決めたことだと言われたらそれ  
までですが、しかし、この内容は地  
域で命を大切にして活動している我々  
の福祉現場の実情とは距離感がある

でもあります。それでも、また二〇一二年度に介護・  
医療制度改革を控えていることもあ  
り、後に振り返ったときに「大きな  
節目の年度」になるでしょう。今後  
十年、二十年を展望する構えで、採

# 第12回通常総代会を開催(会場:アクロス福岡)

〈県内の総代170名が参加〉 2011年6月19日(日)



(賛成多数で採決)

六月十九日(日)、福岡市中央区天神のアクロス福岡を会場に「第十二回通常総代会」を開催、総代一七〇名の出席がありました。

この日、東京の日本高齢協連合会より、市川会長が来賓として臨席され、「高齢者を取り巻く環境は荒野のようではそこに寒風が吹いている現状があり、大震災を契機に一層協同と連

帶の新たな一步を大きく踏み出さなければならぬ」そして「震災からの復興、連帶と協同の中に希望がある。排除と孤立を許さず人々の絆を再生し、高齢者福祉の地域づくりに全力で取り組もう!」と力強いメッセージを頂きました。

次に宮田理事長が「理事長を引き受けて一年が経過して、崇高なケアワーカの人たちの労働は素晴らしいと感じた。自分の人生の最後の興味が湧いてきて、この中で一緒に考え、行動してみよう」という気持ちになつたのが引き受けた出发点である」と真情を吐露されました。



(議長団)

(川内洋子さん) (石田幸生さん)



(市川会長)



(井手森生監事)

**理事会の議案提案を受けて次のような質問や意見が出されました。**

## 議事の内容

その後、石田・川内さんの両議長により議事が進行。第一号議案から第四号まで一括提案されました。稻月専務から昨年の事業と決算報告。今年の事業計画と予算の提案があり、森元・萩尾の両常務理事から組織運動分野と事業経営・管理運営分野の報告がありました。

次に井手監事より昨年一年間の生涯の財産及び理事の業務執行状況について詳細な監査報告があり、違反の事実は認められないと宣言。今後も高齢者福祉の理想の実現を強く望むと結ばれました。

認知症は様々な症状が現れますので誤解による苦しみを経験しています。認知症の方が施設に入居できないことに憤りを感じています。ふくし生協が「受け入れますよ」と言って頂きたい。認知症や障害者でも安心できる町づくりを構築する為に、今後もお手伝いをしていきたいと思っています。

「福岡事業所」(西南)  
(梅野信子さん)「夢ひろば事業所」  
(高田芳信さん)

現在、日本中で話題になつてします東日本大震災の被災地に行つて來ましたのでご報告いたします。私は岩手県の仲間、大船渡にある「すずらん事業所」で介護支援を行いました。目にしたのは泥一面の大地と瓦礫の山々で、想像を絶するものでした……。

(本誌六ページにより詳しく再掲)

昨年の活動報告と今年の本部方針に対して反対の立場の意見を述べます。東事業所は十年以上地道に頑張つてきました。仕事の評価は賃金で評価されるべきです。評価される賃金をどう保障していくかもつと考えて欲しい。生協には労働組合がありませんし、身分を要求する場がありません。



「福岡事業所」(東)  
(宇加治靖子さん)

当事業所の安心サポート事業についてお話しします。定年退職しても社会貢献の方法がわからない人が多い。安心サポート事業は、福祉生協の理念と一致しており、介護保険では支えきれない支援を助け合い・支えあいの心で地域組合員・職員組合員で取り組んでいけばいいと思います。



「福岡事業所」(西南)  
(石下雄造さん)

介護保険の改定で、必要なサービスが提供できなくなります。常に改善の意志を持ち、社会保障と事業が連携した取り組みで、基本的人権を守る運動をしていかなければなりません。

また、宣伝活動においても、各地域で協力し合える体制作りをしなければならないと思います。



「帆柱事業所」  
(太田いほ子さん)

自立支援法訴訟の原告で、約束完全実施を目指す会「福岡めざす会」をしています。最近、社会保障を切り詰める動きになっていますが、地域のニーズを掘り起し地域と共にやっていく事を絶対忘れず、土台を支える労働者の声を真摯に受け止めで欲しい。生協の支援には感謝しています。



「福岡事業所」(東)  
(敷島篤子さん)



### 質問・意見については、質問順に回答します。

- ・行方不明を一人もださない「まちづくり」の方針は、改めて必要であると考えます。ふくし生協は、断らない・(利用者・組合員に)寄り添う介護で発展してきたので、今後も地域ネットワークづくりに力を発揮できる体制づくりをめざしたい。
- ・東日本大震災の被災地復興は、まさに1~2年では終わらないでしょう。(稻月専務理事) ふくし生協の連帯支援は(連合会を中心としながら)全国の仲間とともに、息の長い取り組みを継続していきたい。
- ・安心サポート事業の2つの取り組み動機を中心に発表していただきました。まさに、安心サポート事業は、ふくし生協の理念を実現するために取り組むべきものであることを再確認させられました。展開に向けてしっかり整備をしていきたい。
- ・職員組合員の待遇改善や意見・要望を吸い上げる仕組みについては、(キャリアパスの)ヒアリング制度や従来から取り組んでいる全職員組合員が予算協議へ参画する流れなどをさらに工夫して対応していきたい。
- ・社会保障関連の運動課題に対しては連合会理事会を中心に意見書を作成して、提起してきましたが、今後は、全国組合員の声をバックに、大きな連携行動に発展させていきたい。
- ・以上のように、それぞれの意見に回答しましたが、今は、ふくし生協の理念を次世代につなげ、その活動を継続していくよう、人の体制・財産などを残す意識が必要な時期と考えています。ふくし生協組合員の意志を反映させた「安心・安全の地域づくり」に、貢献できるように力を結集していきましょう。

## 稻月専務・討議のまとめ

# 第十回記念通常総会「東京総会」開催 《日本高齢者生活協同組合連合会》



(代表して挨拶される宮田理事長)

講演「長寿社会に生きる」  
〔講師〕東京大学高齢社会総合研究機構

(特任教授) 秋山 弘子 氏

ネットワークによる子育て支援が求められています。紹介のあつた四施設は、子どもと高齢者の多世代交流拠点として、子育て支援・高齢者支援の環境の充実を図るなど、様々な工夫をされていました。

関する講義は、現行の制度では、運営リスクが非常に高いことを改めて認識することが出来ました。パネルディスカッションでは「公共」とは、そもそも何なのか?を考え、公の施設に対する概念を「自治体が所有する施設」から「市民の施設」と改め、さらに公共サービスと自主事業の関連付けを上手に行なうことができれば、様々な角度から「指定管理者制度」へ対するアプローチも可能になるのでないかと思いました。

(記・事務局 光井 大)

## 第四分科会 「家族にとっての介護」

六月四・五日の二日間、東京において、第十回記念の総会が開催され、全国二十二の都道府県より代議員ら九十八名が参集しました。三月に東日本を襲つた大震災が発生した中で開催。通常の議案の審議と同時に被災地の仲間へ緊急的な援助から本格的な復興に向け

## 第一分科会 「子どもとお年寄りのいる風景」

専門的な視点から考えていく内容で、グループワーク形式で行われました。参加者の半数は介護保険事業の未経験者ということもあり、専門的とはいきませんでしたがインフォーマルな視点もとりいれることで、より利用者様の「その人らしさ」を大切にする深みのある議論をすることができました。

また、全国の高齢協の取り組みなども話が聞けたので、とても良い

また、全国の高齢協の取り組みなども話が聞けたので、とても良い経験となりました。

都市化や核家族化、地域における人間関係の希薄化などにより、身近に相談できる相手がなく、高

## 第三分科会 「新しい公共の未来」

(記・事務局 安樂 大輔

継続的な支援を行うことなどを採択しました。今こそ連帯と協同の精神による実行力が試されています。

来年の第十一回総会は、福岡県福祉生協主催の開催が決定しており大きな期待が寄せられています。

して います。そのため、子育て支援の親同士の交流の場、児童の教育に関する情報の提供など、地域

伊藤講師による「指定管理者制度」（問題点・矛盾点の説明）に

ことができる様にするには、在宅重視の介護保険拡充が望まれます。**自宅+地域+介護保険+医療**の総合的ケアマネジメントに我々が参画することこそ必要です。

# ご存知ですか？

公的年金は、インフレなどで年金の実質的価値が目減りしてしまうこと等を防ぐため、前年の①全国消費者物価指数・②名目手取り賃金の変動率のほか、③現役の被保険者数の増減・④平均余命を基準として、毎年、年金額の改定を行うこととされています。

**Q 年金額の改定方法はどうなっていますか？**

毎年、物価等の変動に合わせて改定が行われます。



## 平成23年度の年金額は0・4%の引き下げ―― ―22年の物価下落に合わせて5年ぶりの引き下げ――

**Q 物価が下がつても昨年は変わらなかつたのが、なぜ今年は変わるのでですか？**

現在は平成17年の物価水準を基準にして改定しています。

年金額の引き下げを行う場合、前回の引き下げ時の物価水準（引き下げを行った年度の前年の物価）を基準として行われます。前回の引き下げは平成18年度に行われたため、17年の水準が年金額の引き下げを行う場合の基準になっています。

しかし、現在支給されている年金額は、過去、物価下落時に年金額を特例的に据え置いた経緯から、法律で定められた年金額よりも高い水準となっているため、これが解消されるまでの間は前記①のみを使用して、物価が上昇しても据え置く一方、物価が基準年の水準を下回った場合、その分だけ引き下げられることとされています。

18年・20年にそれぞれ物価が上昇し、17年の水準より累積で1・7%のプラスとなっていたため、21年に1・4%の物価下落がありましたが、1・7%の範囲内であつたため引き下げは行われませんでした。

平成23年度の年金額は、平成22年の全国消費者物価指数が対前年比▲0・7%となつたことから、平成17年の物価水準を基にして累積で0・4%下回ったため、平成23年4月から0・4%引き下げるこ

**Q 改定後の年金は、いつが支払われるのですか？**

年金は、2月・4月・6月・8月・10月・12月の年6回に分けて支払われ、それぞれ、その前月までの2ヶ月分が支払われることとなっています。

### ●23年度の年金額は……

#### ●国民年金(老齢基礎年金〈満額〉:1人分)

月額 6万5,741円 (平成22年度比267円減)

#### ●厚生年金(夫婦2人分の老齢基礎年金を含む標準的な年金額)

月額 23万1,648円 (平成22年度比944円減)

※国民年金は、40年間保険料を納付した人の場合

※厚生年金は、夫が平均的の収入(平均標準報酬36.0万円)で40年間就業し、妻がその期間全て専業主婦であった世帯の新規裁定の給付水準

# 東日本大震災の「被災地」に行ってきました!

福岡事業所(西南)から二人派遣! (大船渡市での活動報告)



(藤川貴司さんと梅野信子さん)

東日本大震災に対して  
私たちふくし生協でも何か  
出来ることはないかと、  
東京の日本高齢協本部から  
全国の各生協へ通達と  
依頼があり各県のふくし  
生協事業所で募金活動や、  
現地へ介護職員派遣など様々  
な支援活動が展開されて  
います。そのきっかけに  
応じて、福岡西南事業所  
から梅野信子さんと藤川  
貴司さんの二人が現地に  
派遣されました。以下、  
その報告です。

あの大震災から一ヶ月  
後の四月十日から十五日  
まで被災地に行つてきました。  
新潟の高齢協の方々  
の報告です。

私達は高齢協の仲間である岩  
手県大船渡市の「すずらん事務所」を訪ねま  
した。五人と私の六人で現地に向かい  
ました。

私達は高齢協の仲間である岩  
手県大船渡市の「す  
ずらん事務所」を訪ねま  
した。

一方、藤川さん



(幹線道路に漁船がゴロリ)

## 見わたす限り泥一面の大地、ガレキの山々：呆然、絶句!



(岩手県の仲間「すずらん事業所」)

同時に震度六の余震があり、不安が増してきました。  
私は(梅野)は、大船渡にある  
デイサービス「すずらん」で介護支援に当りました。朝夕の送迎にも同行しましたが、行く所全て瓦礫の山で、その光景に耐え難い気持ちでした。すずらん事業所では、自宅が流され避難所生活の職員も居られました。が、暗い表情も出さず懸命に仕事を専念されていた姿に感動を感じました。この施設では役員一名、利用者十八名の死亡、家の流失十二名という災難にあります。

大船渡では震災後一ヶ月目で、電気・ガスの一部は復旧していましたが、水は一日に二回程給水車が回ってきていた状態で、不便な生活を強いられています。

私は高齢協の仲間である岩手県大船渡市の「すずらん事業所」を訪ねました。交通網は各所で寸断されていて、移動だけで八時間要しました。一步足を踏み入れると、テレビで見ると大違いで、見わたす限り泥一面の大凧と瓦礫の山々で想像を絶するものがあり、絶句と共に涙があるふれました。テレビの画面では正に泥とガレ

は梅野さんと交代で四月七日に現地に入りました。活動は近隣の施設に届いた支援物資の配布や仕分けをしたりの活動で汗を流されました。



今回の梅野・藤川さんは私達福岡県高齢協を代表した形のお二人ですが、その献身的行動に惜しみない拍手を贈ると共に、そのお二人を送り出した西南事業所の皆さんにも敬意を表します。

## 復興支援金報告

皆様方から寄せられた復興支援金につきまして感謝をもって報告します。

- 6月25日現在で集計-
- ・当生協から  
(750,000円)
- ・各事業所からの支援金  
(544,876円)
- 合計1,294,876円

を日本高齢協連合会本部へ送りました。皆様方からの淨財、誠にありがとうございました。



# 事業所だより

**第二ケアホーム  
完成?  
(ひまわり事業所)**

ケアホームは現在五名の入居者と三名の宿泊体験利用で進行中です。

新しい生活にも慣れてきましたが、週末に実家で過ごした後の『ただいま』がまだ笑顔とは限らず、スイートホームへの昇格はまだまだ先のようです。

そんな私たちのスッタモンダを横目に最近、新しい仲間がやつてデイサービス「えがお」が開所して、もう五年が経過します。それはNさんと出会つて、五年が過ぎたということになります。Nさんは、その頃から凛とした雰囲気を感じさせる九十歳代の女性でした。また何にでも好奇心あふれる若々しさを感じたものです。

そんなNさんも幼少の頃は、兄弟の中では末っ子で年離れた兄妹でした。

そんなNさんも幼少の頃は、兄弟の中では末っ子で年離れた兄妹でした。

## デイ・サービス「えがお」に 五年勤務して…(千代事業所)

彼らがさらりと馴染んでいく様子に、心励まされる毎日です。

(記・稻月 昌子)

来ました。

二名?の新参者は、下見に何度も通つて来られ、宿泊体験を数日おこない、『ここだ!!』と決めたらしく、たつたの二日で部屋?を整え、悠々と暮らし始めました。(写真参照)これまで面識もないし、安全面の確保に不安があつたので、一度はお断りしたのですが、搖ぎ無い決意に追い返すことができませんでした。

彼らがさらりと馴染んでいく様子に、心励まされる毎日です。

(記・稻月 昌子)

## 〈百歳、おめでとうございます〉

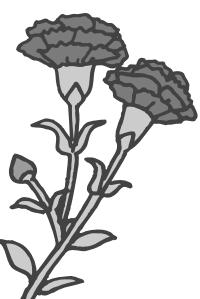


今年の「母の日」は、ご利用者様の娘様より、日舞の発表会の招待状を頂き、皆で楽しみにしていたお出かけの日でした。当日、会場には一般の方々も沢山お見えになる中で、要介護度が高く、ましてや認知症のご利用者様ですので、果たして何時間もジッと過ごせるものかと一抹の不安を感じながら、スタッフ総出の態勢で臨みました。

しかしそこは我らが「さくら」のご利用者様、人生の大先輩ですね。人前でのマナーをキチンとわきまえておられ、踊り手を真剣に見つめ、精一杯の拍手を送られる姿には、スタッフ一同、感慨深い思いで一杯でした。そして当初の不安は杞憂に終わりました。同時に外出に対しても自信にもなり、今後も機会を見つけて外出したいという思いを強くしました。

(記・永松 明美)

**「母の日」の出来事  
(宗像福津事業所  
さくらデイサービス日之里)**



(記・因幡 亮子)

や姉の中で育ち、家族の中では、世話を焼かれ、可愛いがられる存在だったとか。しつかりした中で時折見せる可愛らしい仕種と、茶目っ氣あふれる姿に、私たち職員は癒されています。

そのNさんが何と今月で百歳になられます。いつまでも変わらずお元気なNさん。Nさんと「えがお」で一緒に過ごせることに、日々、喜びを感じています。これからも、「えがお」の仲間・大先生として、また良き相談役として、笑顔の多い時間を過ごしていくましょう。

たまのユーモアを忘れずに。

〔夢つどいの会〕始動!!  
「認知症と共に生きる」講演会開催  
(夢ひろば事業所)

これまで六年間連続して取り組み、地域から歓迎され親しまれてきた「夢まつり」。

今年、取り組み母体の名称を「夢まつり実行委員会」から「夢つどいの会」へと変更致しました。これは、地域まつりの取り組み



(講師の高田芳信氏)

くれるなど、いろいろな地域の力が合わさっての運営でした。  
ふくし生協の全面的バックアップによつて、組織活動・地域コミュニティ一づくりが少しづつ前進していっています。

これからも組合員・地域住民の連帯と協同・絆を大切にする「夢つどいの会」として成長していく事を願っています。

(記・吉田俊憲)

「ヘルパーステーション筥崎」  
十年を突破!!

(福岡事業所(東))

だけに限定せず、もっと幅広く地域の要求や課題に応えていける組織にしていこうと話し合った結果、そのように一致したからです。

そして、その企画第一弾として七月八日(金)に「認知症と共に生きる」講演会を開催しました。講師にはこの分野の第一人者で、「老いを支える北九州家族の会」代表の高田芳信氏をお招きしました。氏は当生協の組合員でもあり多くの人に知られています。

この日、皆で力を合わせて準備、地元の市民センター大部屋には六十名もの参加者で満席状態。講演では、認知症の人の生活上の支障や心の不安、どう接する事が大切か、また、日常生活の方や集い合う環境・人との関わり方によつて生きる力が増して笑顔で過ごせるようになるなど、多くの事を学びました。

当日、開会あいさつしたのは老人会長さん、プロジェクト操作は葬儀会社のマスターが担当して

ヘルパーステーション筥崎は、第一期ヘルパー講座修了生が中心となり、平成十二年十二月一日に開設しました。みんなで持ち寄つた家具を利用して事務所をつくり、小さな拠点からのスタートでした。

「安心して暮らし続けられる街づくり」「住み慣れた我が家で寝たきり、閉じこもりにしない介護」を目指してまいりました。

小さな拠点から……男の料理教室・三世代子育て支援講座・障がい児との合同キャンプ・福祉の町づくり講演会・ヘルパー養成講座・法律・生活・介護・相談会……と様々

な活動を広げてきました。  
訪問介護の事業所として安心・

安全なサービスを提供できるよう月一回、定期的な研修を行い、知識と経験豊富なヘルパー・介護福祉にて、ご利用者様が住み慣れたご自宅で生活の支えになれるよう対応させていただいております。

介護保険改正のたびに、介護保険の厳しさと共に歩んだ十年間でしたが、平成二十年に東事業所全体で営業推進委員会(常勤五名、非常勤四名)を発足し各部門で、手作りリーフを作成、営業活動をスタートしました。ドキドキしながら、包括支援センターや居宅を訪問・常勤・非常勤職員全員でリーフを地域の個人病院・商店街・美容室など様々な場所へ配布し、事業所全員で取り組みました。時には本気でぶつかり合いながら三年間頑張った成果が今やつとでてきたように思えます。現在は新規の依頼を喜びながら、ヘルパー不足と奮闘の日々ですが、皆で助け合い協力しながら対応させていただいております。

これからも、住み慣れた地域・ご自宅で、安心して過ごしていただけますように、スタッフ一同、心をこめた介護が提供できるよう努めていきたいと思います。

(記・勝井理恵)

## ここがスタート!!

(青葉事業所)

### ミナミ事業所の運営委員会が100回記念達成 「継続は力なり」を実感、今後に期待!

福岡市のミナミ事業所「運営委員会」が去る6月16日(木)、第100回を達成いたしました。

平成14年10月に第1回目を開催して、もう9年が経過し、この日を迎えたものです。

毎月第三木曜日の午後3時半から5時の間、開催厳守を合言葉に続けてきました。現在では7名の委員(職員4名・地域組合員3名)で構成。毎回、笑いの絶えない楽しい雰囲気の中で実施しています。

この日は、本部事務局から永山氏も駆けつけて、共に100回記念を祝いました。

今回の7月21日の101回ではこれを記念して「けじめの祝会」を計画中です。今後の活動に期待がかかります。

(記・長谷)



最初の頃から、皆で悩んだり、相談しながら進んで来ました。利用者様のお泊り、医療との連携、看取り…。全てスタッフ皆で思いを出し、あつて決めてきました。何かを始める時はまず会議の報告・連絡・相談は絶対必要です。

ささてきています。

青葉事業所として始まって早五年…。スタッフもちようど良く熟

つてて良いのか?良くないです!更に前に進んで行かなくては新鮮さが無くなってしまいます!

少し手狭になつている所から、

広い場所に移り、心機一転で頑張る。

青葉事業所を始めた時のスタッフなら大丈夫です。また一から始められます。でもこれで終わりじゃないですよ。夢はまだまだ進みます。想像を越えて妄想に近づいて行きそうですが…。(私だけですか?)

ようやく計画の一歩を歩み始めました。しつかり足元を固めながら皆で進んで行きます。

当ぬくもり事業所では、難病「筋萎縮性側索硬化症(ALS)」の利用者さん宅へ、ヘルパー二人体制で訪問し、様々な援助を行っています。サービス開始にあたり、

います。

初めての人工呼吸器、気管内吸引にかかるヘルパー全員(七名)

が、病院の看護師について研修と指導を受けました。医療手順の確認や作業が不慣れなため、事務所で代用品を使用し、皆で何度も吸引の実技練習を行いました。(みんな必死で頑張りました。)

また、コミュニケーションは文



私の夢はまたいつか機会があれば…。

(記・細川 美香)

### 人工呼吸器・気管内吸引の実技を練習しました

(ぬくもり事業所)

### 読者の皆様 “暑中お見舞い申し上げます”

今年の夏は殊の外暑く、気温も高目の日が続くと予想されています。室内での脱水症状と熱中症にはお気をつけ下さい。

節電などで無理をなさらず、休養と水分補給をこまめに行い、どうぞ御自愛ください!

(記・伊藤 恵美)

の表情が厳しくなり、緊張感が漂うことがしばしばありました。

今では、吸引や、文字盤でのコミュニケーションがスムーズにできるようになりました。

利用者さんの表情から気持ちがくみとれるようになり、お互い顔で会話できるまでになりました。

ヘルパーも自信が持て、今後も逞ましく、日々の訪問を続けています。



(文字盤でコミュニケーション)

# ふくし生協フェスタ 2011

## いま見つめよう、 地域の絆

・2011年9月18日(日) 10時開場  
 ・北九州八幡口イヤルホテル 2F  
 北九州市八幡東区枝光1-1-1

第1部 10:30~12:40

パネルディスカッション

### 心と心のつながりで地域の絆を ～東日本大震災から

パネラー

- ・藤原 英一 岩手高齢協理事長
- ・稻月 秀雄 専務理事
- ・坂元 雅子 水巻支部運営委員長
- ・森岡 三郎 ニコニココーディネーター

第2部 12:50~15:30

### 組合員交流パーティ

今年も地域からの楽しいアトラクション、コンテスト結果発表、お楽しみ抽選会など、元気が出る企画が盛りだくさん。

第2部会場では地域紹介のフリースペース(各1畳程度)を設け、作品等の展示やバザーを予定しています。

### 「笑顔写真コンテスト」 「福祉川柳コンテスト」

■「フェスタ2011」会場にて抽選結果を発表します。

先の理事会で承認されました長期所在不明組合員について、各事業所毎の組合員名簿に基づいて行うその安否調査にご協力を願いいたします。

尚、長期にわたる所在不明組合員の対応については、「細則第十一号の手続きに関する細則」で取り扱うことになっています。

おことわり  
「街かど探訪」の記事は紙面の  
都合により今回はお休みします。

六月十四日(火)ふくし生協の基礎訓練第三期生九名の修了式が執り行われ、長谷副理事長から修了証書が手渡されました。受講生の「感想発表」では、この三ヶ月間毎日勉学と実習に励んだ日々、ここで出会えた仲間たち

「基金訓練・介護スタッフ  
養成科」

第三期生の修了式

本部事務局  
だより



(講師を囲んで全員集合)

との連帯と絆をかみしめ涙ぐむ場面も見られました。今回も修了式

修了式の最後に、副理事長によるお祝いと励ましのハーモニカ演奏もあり、和やかで心に残る修了式となりました。

介護の業界に羽ばたいていく方々のご健勝を祈りたいものです。

(記・ふくし生協・本部事務局  
人事教育部 山下 七五三)



までに半数の受講生が就職先を決めており、ふくし生協の基金訓練は着実に多くの有望な介護職員を輩出しています。

修了式の最後に、副理事長によるお祝いと励ましのハーモニカ演奏もあり、和やかで心に残る修了式となりました。

介護の業界に羽ばたいていく方々のご健勝を祈りたいものです。

(記・ふくし生協・本部事務局  
人事教育部 山下 七五三)



(西日本新聞より引用)

当生協の理事である林貞樹氏がこのほど「川柳エッセイ集 道程」を自費出版されました。作品からは、福祉の現場でお年寄りに温かな目を注ぐ林氏の姿が伝わります。購入希望者は本部事務局まで。

林理事が自費出版  
川柳エッセイ「道程」



坂元雅子(水巻町)

# 「絵手紙」

みんなの

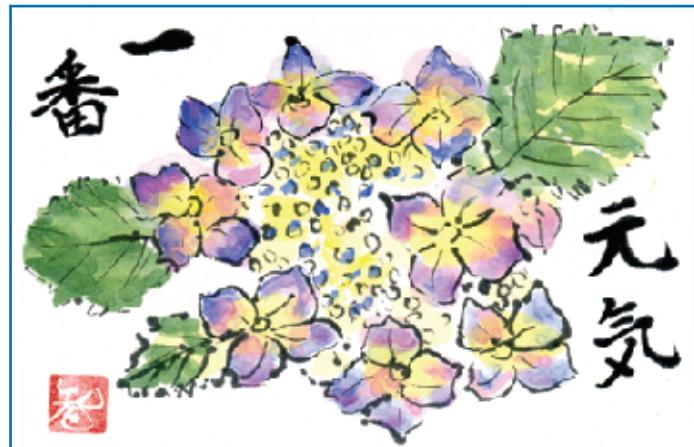
**文芸****広場**

ご投稿ありがとうございます。  
今回は、ペットの写真と川柳・書・絵手紙を紹介します。

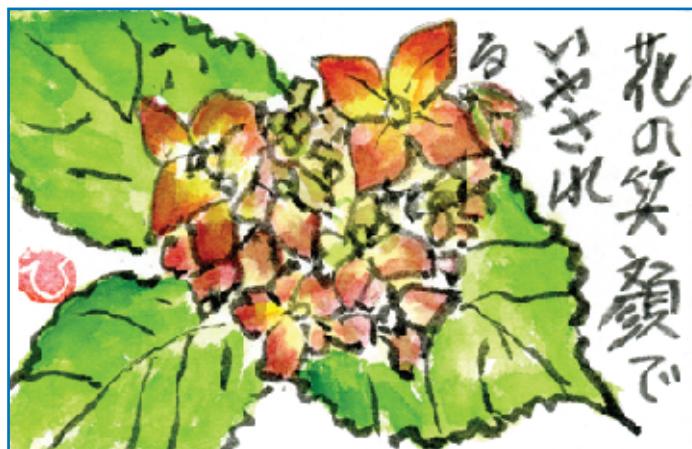
吉住智江(水巻町)



井手幸子(水巻町)



三浦弘子(水巻町)



書:上野昭子(飯塚市)



名前:モンブラン♀  
「モン」又は「ブラン」と呼んでいます!  
撮影:長谷



名前:葉夢(ハム)♀  
撮影:永山美穂

**我が家のアイドル自慢**

・アクセルに足がとどかない!!

・目に入れて痛くないのよペット孫

# ニュース川柳

「文芸広場」に作品を  
ご投稿ください。

ケータイで馬脚表す黒疑館

チデジした痛かろうにと言う親父

お恐い地震津波に放射能

大震災テレビを拝む義母哀し

エコとエゴどちらも人の心がけ

(桧原 健)

2

▼タテ、ヨコの『カギ』に従ってマス目に言葉を入れてください。ただし、右下隅に☆のあるマスには漢字が入ります。タテ、ヨコで漢字の読みは違っています。すべてのマスを埋め終わったら、二重マスの中の文字を並べ替えて、〈ヒント〉にふさわしい言葉を作つてください。それが答えです。

《タテのカギ》

1 悪いところがあるかどうかチェック

2 車の買い替え 今持つているのは?

3 チュウ

5 飛行機から飛び降りる、でもこれが

あるから大丈夫

7 悪いことをするためにグルなる。~する

9 温泉に行くとブンと鼻をつく臭いは?

11 南の島ではすでにやつたところもあるよ

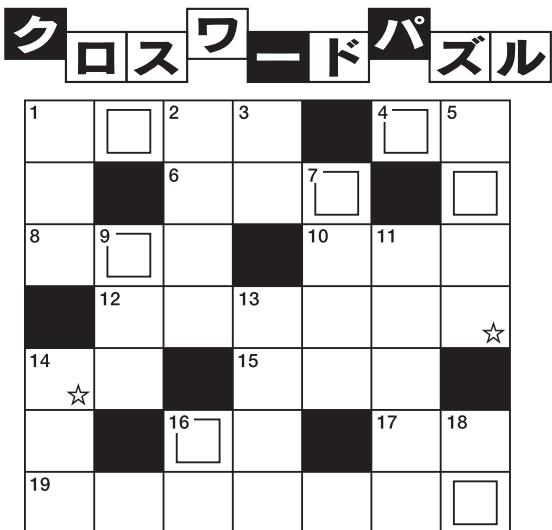
13 テレビの画面がこうだつたら見にくいかなあ

14 見ているだけで口の中が酸っぱくなつてくる

16 カメの~より年の~

18 教~、~練、~示

19 学生に学費として与えます



皆様の自作の作品を「ひやくさい・文芸広報」にご投稿ください。

短歌・俳句・詩・川柳は三首以内とします。また、今号にあるように、我が家の自慢するもの(ペット・絵画・書・花・だん・野菜畑など)を写真でお送り下さい。

尚、特殊な読みをする漢字にはふりがなを付けてください。よろしくお願ひいたします。

完成した言葉をはがきに書いて、「ふくし生協・編集委員会クロスワードパズル係」まで8月31日必着。正解者の中から抽選で5人にQUO(クオ)カードを送ります。

(西日本新聞より引用)

■前回の答は「ソツギョウ」でした。正解者多数につき抽選で次の5人の方々にQUOカードを送りました。

・永住 英子さん (福岡市中央区)

・尾鶴 真さん (豊後高田市)

・高柳 育子さん (福岡市東区)

・中村 明子さん (直方市)

・進藤千賀子さん (北九州市小倉北区)

▼梅雨も明け夏本番を迎えて、各地で水害を見聞きしますが、水不足が悩みの福岡都市圏では恵みの雨だったの本音も聞こえています。▼大震災の被災地ではどうなのでしょうか。生協の仲間達の安否が気にかかります。▼今年の夏は水不足よりも、電力不足が大いに気になるところです。節電・省電・減電できるかナーナー!

編集後記